

## 七十七ビジネス大賞・七十七ニュービジネス助成金

### 代表理事あいさつ

本日は、ご多用にもかかわらず、皆様のご臨席を頂きまして、ここに第22回「七十七ビジネス大賞」および「七十七ニュービジネス助成金」贈呈式を開催できますことは誠に有り難く、皆様のご支援、ご協力に対しまして厚く御礼を申し上げます。

とくにお忙しいなか、ご臨席を賜りましたご来賓の、東北財務局長 原田 健史様、東北経済産業局地域経済部長 蘆田 和也様、宮城県経済商工観光部長 鈴木 秀人様、仙台市経済局長 遠藤 和夫様、日本銀行仙台支店長 岡本 宜樹様には深く御礼申し上げる次第でございます。

また、この度「ビジネス大賞」および「ニュービジネス助成金」受賞の栄に浴されました企業の皆様に対し、心からお慶びを申し上げます。

当財団は七十七銀行の創業120周年を機に平成10年4月に設立され、今年には22年目になります。この間、産・学・官各方面からの厚いご支援・ご協力のもと、表彰事業のほか、講演会やセミナーの開催、情報誌の発行など、幅広い事業活動を続けて参りました。

さて、最近の国内景気につきましては、米中貿易摩擦の激化や英国のEU離脱問題など海外情勢の不透明感から、輸出や生産に弱い動きがみられましたものの、雇用・所得環境の改善が続く中で、基調としては緩やかな回復を続けております。

今後についても、緩やかな回復の継続が期待されておりますが、米中貿易摩擦の行方や消費税率引上げ、10月の台風や豪雨など自然災害に起因する下押しリスクが一段と高まっております。

県内の経済情勢につきましては、経済活動は総じて高めの水準で推移しているものの、震災復興需要の反動などから回復の動きが鈍化しております。

今後については、減少基調ながらも、なお高めの水準で推移している公共投資などに支えられ、緩やかな回復基調が継続するものと見込まれますが、海外経済の先行きに対する不安等から企業の景況感は悪化しており、動向には一層の注意を要するものと感じております。



当財団といたしましても、県内産業の振興と地域経済の活性化、震災からの復興に向け少しでもお役に立てるよう、今後ともこれまでの実績を踏まえ表彰事業・起業支援などを中心に様々な形で、ニュービジネスや起業家を積極的に支援して参りたいと考えております。

本日贈呈いたします「七十七ビジネス大賞」は、永年にわたり県内の産業・経済の発展に寄与し、あるいは活性化に貢献している企業等に対し表彰状と奨励金を贈呈するものであります。

「七十七ニュービジネス助成金」は、新規性・独創性のある技術・ノウハウ等により積極的な事業展開を行っている企業や、新規事業を志している起業家に表彰状と助成金を贈呈するものであります。

審査結果につきましては、後ほど審査委員長である大滝先生からご報告がございしますが、各支援機関





**「七十七ビジネス大賞」** (五十音順)

株式会社ケディカ  
株式会社深松組

代表取締役 三浦 智成 氏  
代表取締役社長 深松 努 氏

**「七十七ニュービジネス助成金」** (五十音順)

青葉化成株式会社  
株式会社アキウツリズムファクトリー  
バイスリープロジェクト株式会社  
ファイトケム・プロダクツ株式会社  
株式会社ワンテーブル

代表取締役社長 石田 一 氏  
代表取締役 千葉 大貴 氏  
代表取締役 菅野 直 氏  
代表取締役 加藤 牧子 氏  
代表取締役 島田 昌幸 氏

や公共団体のご協力なども頂き、今回も幅広い分野から数多くの応募がありました。応募内容も年々レベルが上がっており、優れたものが多かったとお聞きしております。

そのような中から選ばれ、今回受賞されます企業の皆様方は、地域や業界をリードしていく企業であり、また意欲的に将来性のある新商品を研究・開発されている企業や、地方創生・再生を目指す新しいビジネスモデルを展開されている企業であります。いずれも他の地元企業にとりまして模範となり、共に成長していくことを期待したいと思います。

是非、今回の受賞を契機に今後ますますご発展されることを心よりお祈り申し上げるとともに、地元経済・社会に一層貢献されることを切に願う次第でございます。

最後になりますが、審査にあられました大滝審

査委員長をはじめ、審査委員の皆様方には、ご多忙の中ご尽力頂きましたことに対し、改めて厚く御礼申し上げます、私の挨拶といたします。



## 審査結果の講評



### 今回の審査をふりかえって

公益財団法人七十七ビジネス振興財団

審査委員長 大 滝 精 一

(大学院大学至善館副学長)

審査委員長を務めました大滝です。2つの賞の趣旨につきましては、ただいま鎌田代表理事からお話がありましたので、さっそく今回の審査結果についてご報告させていただきます。

まず、応募状況につきましては、今年度は「ビジネス大賞」に7件、「ニュービジネス助成金」に42件、併せて49件の応募となりました。昨年と比べ大賞は8先減少しましたが、助成金は11先増加となりました。応募総数は過去3番目の多さとなり、特に助成金については、年々レベルも高くなってきており、例年に比べましても激戦となりました。

応募の内容をみますと、今年度のビジネス大賞は、建設、機械・メカトロなど、もの作り企業の応募が

中心となり、地域的には仙台市および仙台地域からの応募が6割を占めました。

ニュービジネス助成金につきましては、食品、機械・メカトロ、医療・福祉から各5件の応募がありましたほか、全体的に幅広い分野から応募をいただきました。地域的には、広く県内全域から応募をいただきましたが、仙台市内からの応募が約6割となりました。

「ビジネス大賞」と「ニュービジネス助成金」は、その趣旨が異なりますので、それぞれ別々に選考しております。

ビジネス大賞につきましては、評価の高い商品やサービス、優れた経営手法等により、業界・地域のリーダーとして県内の産業・経済の発展に貢献してきた実績などを総合的に評価いたしました。

ニュービジネス助成金につきましては、製品や技



術力の「新規性・独創性」と、将来の見通しを含めての「事業性」の両面から検討、総合的に評価いたしました。

なお、復興への貢献等も評価の対象に加えております。

審査経過ですが、8月末に締め切りました応募資料にもとづき、各審査委員がそれぞれ書類審査を実施しました。

「ビジネス大賞」につきましては、審査委員会で総合的に検討した結果、今回は2社を選定いたしました。

また、「ニュービジネス助成金」につきましては、二次審査として上位企業によるプレゼンテーションと質疑応答を行い、最終的に5社を選定いたしました。

（「七十七ビジネス大賞」「七十七ニュービジネス助成金」贈呈先の企業概要・受賞理由等は6ページ以降をご覧ください。）

以上、受賞企業を簡潔にご紹介して参りましたが、「ビジネス大賞」の2社は、積極的な研究開発や事業展開により、地元宮城の経済発展に大きく貢献されてきました。地域を代表するリーディングカンパニーとして、今後も更にご活躍され、宮城県の経済・産業の発展に尽くしていただきたいと思っております。

「ニュービジネス助成金」を受賞された5社は、各事業分野で大いに成長が期待されます。各社とも新規性・独創性に優れており、特に地域資源や未利用資源に高付加価値を付けるといった視点や、これ



まで困難とされてきた製品・商品を開発する技術力など、地域経済活性化に向けた明確なビジョンを持ち、新市場の開拓を目指した取り組みを評価しました。これからもそれぞれの強みを活かし、更なる事業拡大に取り組んでいただきたいと思います。

また皆様には、これから新たに創業を計画している起業家や、既にニュービジネスに取り組んでいる方々への理解者としても幅広くご活躍いただきたいと思います。協力・連携しながら相乗効果を発揮することで、地域経済全体の活性化が図られていくものと考えております。

最後になりましたが、大変お忙しいなか、ご審査いただきました審査委員の皆さまに、この場を借りまして御礼を申し上げ、講評とさせていただきます。

